

## 「小金井もの忘れ相談シート」の目的と使い方

### 1 目的

認知症になっても、住み慣れた地域で安心して生活が続けられるよう医療・福祉の関係機関が連携し、支援する体制を作る。

- (1) 関係機関につながっていないケースの実態把握及び相談支援体制につなげるシステムを作る。
- (2) 御本人・御家族を中心に、一方向の単なる情報提供書ではなく、情報を発した機関にその後の情報がフィードバックされる循環型システムとすることで、関係機関が情報を共有し、継続的な連携体制を構築する。
  - ア 病状の進行に伴う問題行動の悪化時の関係機関連携
  - イ 家族の状況（家族の病気や介護状況）の変化時の関係機関連携
  - ウ 成年後見制度に係る鑑定書記入の際における在宅生活の状況伝達に活用

### 2 シートの構成

- (1) シート1「相談事前チェックシート」

本人・家族が抱える困難の状況を確認し、文字化することで、家族の理解や課題整理の助けとする。
- (2) シート2「『相談機関』→『医療機関』連絡シート」

相談機関（行政・地域包括支援センター又は介護支援専門員）が、本人・家族の課題を共有することによって、連携すべき関係機関を明確にする。
- (3) シート3「『医療機関』→『相談機関』連絡シート」

医療者からのアドバイスを在宅支援に結び付け、より有意義なものとしていく。

### 3 シートの使い方

- (1) シート1 家族又は相談機関が記入する。
- (2) シート2 相談機関が必要情報・問題点を整理し記入する  
→ シート1・シート2ともに、連携先医療機関名を記入して、御家族を介して医療機関へ渡す。
- (3) シート3 医療機関が診察結果・アドバイス等を記載し、御家族の了解を得て、相談機関に直接郵送する。

※ なお、シート3の作成については、情報提供書として御家族等に料金負担が発生します。